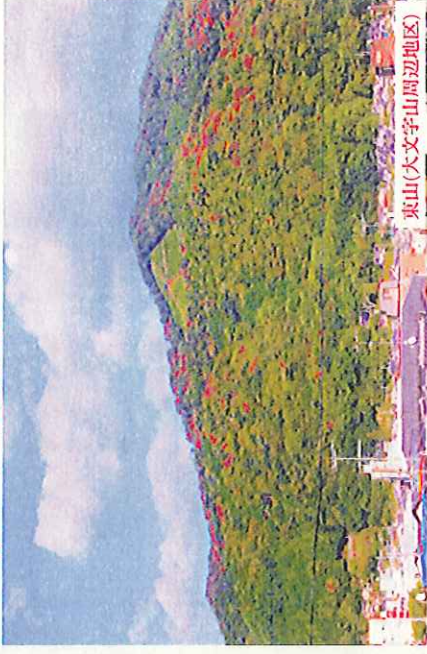


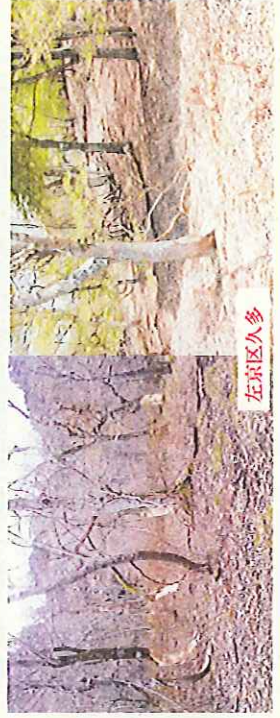
ナラ枯れ発生状況



京都市産業観光局森林部森林管理課 Forest Promotion Section

ナラ枯れ+シカの食害

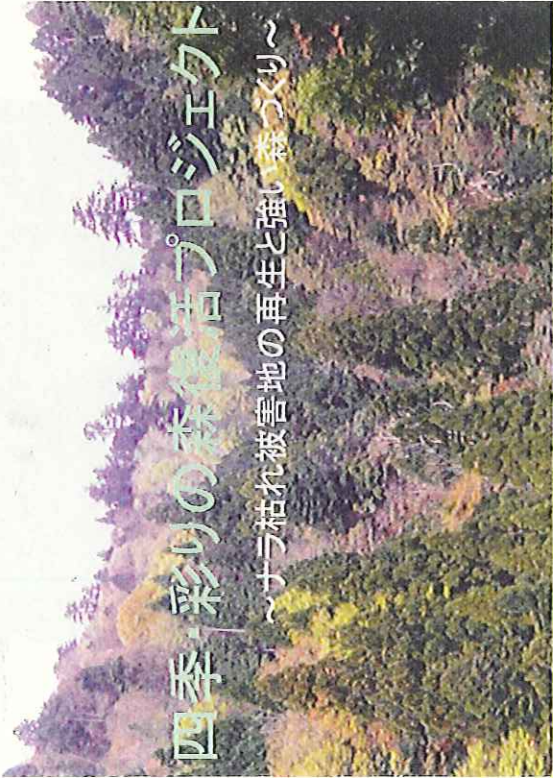
林床の裸地化
 ⇒土壌流出, 水源涵養機能の低下, 災害の誘発
 植物の単純化・破壊
 ⇒生物多様性の低下, 森林生態系の破壊



京都市産業観光局森林部森林管理課 Forest Promotion Section

四季・彩りの森復活プロジェクト

～ナラ枯れ被害地の再生と強い森づくり～



京都市産業観光局森林部森林管理課 Forest Promotion Section

ナラ枯れ発生の推移

京都市域のナラ枯れ発生の推移

単位:本

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
内訳	(平成13)	(平成14)	(平成15)	(平成16)	(平成17)	(平成18)	(平成19)	(平成20)	(平成21)	(平成22)
被害本数	24	23	93	165	112	511	741	1,000	4,000	17,000
処理本数	24	23	46	42	112	212	278	810	506	5,000

※平成19年以降は、市街地周辺三山のみの本数

※平成21年度は、この他に八丁平等の市有林で665本を処理している。

※平成16年以前は旧京北町での発生本数

京都市産業観光局森林部森林管理課 Forest Promotion Section

被害跡地をどうするか



シカの食害によるナラ枯れ被害跡地の植生の変化・裸地化

防鹿柵・地域性苗木を組み合わせた復旧

京都市産産物光臨園 林産部 産物課 林産部 産物課

防鹿柵・地域性苗木を組み合わせた復旧



被害跡地にバッチ状に地域性苗木を植栽

京都市産産物光臨園 林産部 産物課 林産部 産物課

地域性苗木の生産供給体制の整備

～生物多様性に配慮した森林整備の推進～

従来の苗木(林業用・公共緑化用)^(林業用苗木は除外)

- クローン(挿し木・接木)や特定母樹に由来する苗(遺伝子的バラつきが少ない)
 - 遠い産地で採種・育成された苗(郷土に本来自生しない)
 - 本来の地域集団が持っていた遺伝的多様性が衰退(外交弱勢)
- 地域固有の遺伝子資源の保全、京都らしい森林の整備・緑化のため
- 市域に自生する樹木の種子から育てた苗木の生産体制を整備



ササの復元プロジェクト

～失われた植生の回復～



ササが枯れていく!!



ササの開花枯死
シカによる食害

林床の裸地化



養生・成長したササ苗は
再び森林内に植栽・戻
し、防鹿柵を設置する。

約10年程度で復元

京都市産産物光臨園 林産部 産物課 林産部 産物課

京都市産産物光臨園 林産部 産物課 林産部 産物課

市民団体による復旧作業

～京都伝統文化の森推進協議会



土留板を用いた地域性苗木の植栽

市民団体による除伐作業



京都府産業観光局環境林保課環境林保部 林業推進課

市民団体による活動

～京都伝統文化の森推進協議会



ナラ枯れ被害木搬出・新割り大作戦 H22.12.16～18

京都府産業観光局環境林保課環境林保部 林業推進課

市民団体による活動

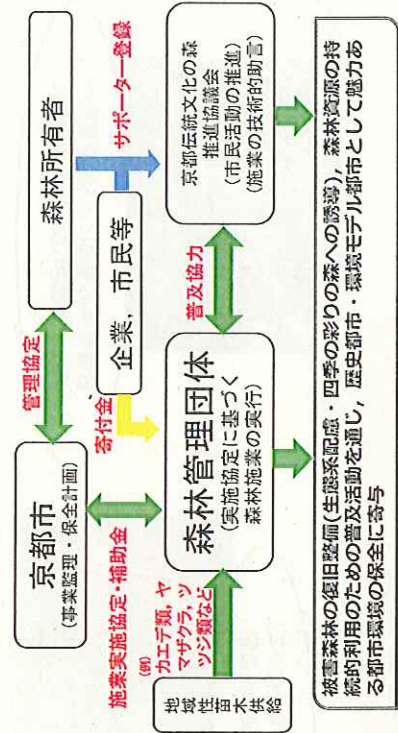
～京都伝統文化の森推進協議会



ナラ枯れ被害木搬出・新割り大作戦 H22.12.16～18

京都府産業観光局環境林保課環境林保部 林業推進課

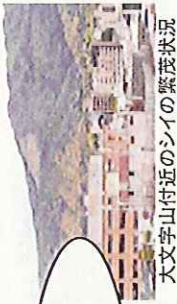
四季・彩りの森復活プロジェクト



京都府産業観光局環境林保課環境林保部 林業推進課

京都市三山森林景観保全・再生ガイドラインの概要

三山が抱える現状と課題



下層への光を遮るシイ林の繁茂による地衰の植生の衰退

大文字山付近のシイの繁茂状況



病害虫によるアカマツ林の衰退やナラ類樹木の大量枯死(ナラ枯れ)

小倉山の被害状況



大文字山の被害状況

シカの食害で新芽が育たないことによる森林の世代交代の途絶



食害によって枯れたヒノキ幼樹



間伐がないスギ人工林で発生した大量幹折れ

放置森林の増加による斜面崩落の恐れや間伐されない樹木の幹折れ

基本理念

京都らしく美しい森林と豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ

対象とする区域：約17,000ヘクタール

【京都市自然風景保全条例】に定める「第1種自然風景保全区域」
 【京都府自然風景保全条例】に定める「歴史的風土特別保存地区」
 【京都府自然風景保全条例】に定める「近郊緑地特別保存地区」
 その他これらの区域に隣接する緑地

基本方針

- 1 人との関わりの中で形成されていた森林には手を入れていく森林景観づくり
- 2 森林の公益的価値の重要性に応じた森林景観づくり
- 3 適地適木の考え方を基本とした森林景観づくり
- 4 市民やNPO、事業者等との協働による森林景観づくり

「整備をめざす森林像」決定までのプロセス

現況植生等からみた三山の類型化

三山を限なく歩き、専門家による徹底した現地踏査により、現況データを収集

占有面積率の高い植物ごとに、ヒノキ林やイロハモミジ林、コナラ林など37種類に区分
 → **森林類型**

5つの要素を指標とし、これらの組み合わせにより、三山の森林の立地条件を17種類に区分
 → **立地類型**
 ※表層地質、地形の凹凸、堆積区分、斜面勾配(傾斜)、表層土粒径

その場所に適した森林類型の把握(適地適木の原則)

景観形成価値からみた景観重要性
 (歴史的文化的資産との一体性、市街地からの見え方などに応じて4つに区分)
 経面防災からみた重要性
 (防災上の観点から2つに区分)
 地域生態系からみた重要性
 (植物種の多様性の観点から2つに区分)

(森林像の検討)

目標とする森林像

整備をめざす森林像

市民やNPO、事業者、森林所有者、行政など、森林景観づくりに取り組む主体者の事情

林相改善技術指針
 森林再生技術指針
 森林保全技術指針
 獣害・病虫害対策技術指針

立地類型に応じて、8~23種類の森林類型が得られる